

## 🌸 「奈良の都の木簡に会いに行こう！」 (日本学術振興会ひらめき☆ときめ きサイエンスプログラムの開催

2017年8月22日(火)・23日(水)、子どもさん向けのプログラムとして、「奈良の都の木簡に会いに行こう！」(共催日本学術振興会、後援奈良県教育委員会・奈良市教育委員会)を実施しました。近年、奈良文化財研究所では、近隣中学校の職場体験や職場訪問の受け入れをおこなっていますが、木簡に特化したプログラムは今回が初めての試みです。

両日10名の募集に対し、予想をはるかに上回る応募がありました。抽選はおこなわず、プログラムの運営を工夫することで、最終的に計37名の小5から中2までのみなさんと、保護者の方々にご参加いただきました。この場を借りてお礼を申し上げます。

プログラムは、説明、実習、見学等5つのプログラムで組み立てました。開講式の後、最初の「木簡に会ってみよう」は、木簡の観察です。説明は必要最小限にして、じかに本物を見ることで、木簡を少しでも身近に感じてもらえたらと考えました。

「木簡を探してみよう」と「木簡に触れてみよう」は、現場から持ち帰った土を洗浄・分別して遺物を探し出す作業と、収蔵庫に保管してある木簡の水替え作業の体験です。木簡がどれだけ多くの労力に支えられて今あるのかを知ってもらえたようです。

2つの作業の合間のお昼には、奈良パークホテルのご協力で、木簡に登場する食材で復元された古代食を味わいました。次の「木簡を読んでみよう」は、1961年出土の平城宮第1号木簡、いわゆる寺請木簡の手作り模型による木簡解読体験です。私たちがどうやって普段木簡を読んでいるか、手の内もあか

しながら、木簡解読に挑戦してもらいました。

最後は、解読した寺請木簡が出土した、第一次大極殿院北側の大膳職推定地のゴミ穴の跡を訪ねるツアー「平城宮に出かけよう」により、木簡づくしの1日のプログラムを締めくくりました。

(副所長 渡辺 晃宏)



プログラムのポスター